

授業科目名	診療時援助技術演習	担当教員	助教 坂根可奈子、講師 宮本まゆみ他		
開講年次及び学期	2年後期	必修・選択の別	必修		
開講形態	演習	時間数	30	単位数	1

授業の目的（概要）

医療を必要とする人の生活を支える看護ケアは、病気の治癒の促進や安寧を目的として行われるが、対象者の身体に何らかの侵襲を伴って実施されるため大変リスクの高い行為となる。将来、これらのケア技術を安全かつ安楽に的確に実施できるよう、また、多様な場面で活用できるよう“覚える”学習ではなく、科学的根拠に基づいた原理・原則を主体的に学び、状況に応じた方法を考えることに重きを置いた学習を行う。

本科目では、科学的根拠に基づく援助技術の基本的方法を模倣レベルで習得し、対象者の状態と取り巻く状況に対応した個別の援助方法を導くための方法を理解する。それにより、医療・看護ケアに潜在するリスクを予見し、回避するためのリスク感性を育む。

学修成果（到達目標）

- 1 基本的看護技術の原理・原則の基盤となる科学的根拠を理解できる。
- 2 各看護技術について、科学的根拠に基づく基本的な方法が理解できる。
- 3 援助技術の原理・原則を、[ボディメカニクス][作業域と行動の組み立て][清潔と不潔][経済性][反応の観察と対応][個別性][対象者との協働]の観点から効果的に活用するための方法を考察できる。
- 4 アセスメントに基づいて援助方法を導く論理的思考と実践の融合プロセスが習慣化できる。
- 5 看護行為の安全に対する看護者の責務について考察できる。

キーワード

看護技術、侵襲を伴う援助、検査、与薬、呼吸、循環、感染予防、安全

授業の進め方

事前課題、小テスト、グループワーク、反転学習、演習

オンデマンド型講義およびWebexと対面演習を併用して実施する。

フェーズが上がった場合、対面演習は延期し、フェーズが下がったあとに別途対面演習（自主練習）の機会を設定する。

成績評価の方法（合否基準）

事前課題への取り組み状況（小テスト）10%、レポート10%、筆記試験80%の総得点を100点満点に換算したうち60点以上を合格とする。

教科書・参考書・視聴覚・その他の教材

【教科書】

任和子他：根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第2版、医学書院

香春知永他：基礎看護技術 看護過程のなかで技術を理解する 改訂第3版、南江堂
（日常生活援助技術演習で購入したもの）

【参考書】

吉田みつ子他：新訂版 写真で分かる基礎看護技術アドバンス、インターメディカ

本庄恵子他：新訂版 写真で分かる臨床看護技術①アドバンス、インターメディカ

本庄恵子他：新訂版 写真で分かる臨床看護技術②アドバンス、インターメディカ

任和子他：系統看護学講座 基礎看護学[3]基礎看護学技術Ⅱ 第17版、医学書院

村中陽子他：学ぶ・活かす・共有する 看護ケアの根拠と技術 第3版、医歯薬出版株式会社

【視聴覚教材】

e-learningコンテンツ：ナーシングスキル

オフィスアワー

坂根可奈子(基礎看護学講座) 日程を調整しますので、メールで連絡をください。
E-mail: k-sakane@med.shimane-u.ac.jp

モデル・コア・カリキュラムとの関連

A-6 ケアの質と安全の管理

A-6-2) 安全性の管理

ねらい：

日常的に起こる可能性がある医療上の事故・インシデント（誤薬、転倒・転落、院内感染、針刺し事故）等やリスクを認識し、人々にとってより安全な看護を学ぶ。

学修目標：

- ① 看護における安全性の確保のため、能力向上の必要性を説明できる。
- ② 看護における安全性の確保のための対応策を実施できる。
- ④ 自身の体調管理を行うとともに、知識及び技能を見極め、能力の範囲に応じて他者の支援を仰ぐことの重要性を理解できる。

D-2 基本的な看護技術

D-2-1) 看護技術の本質

ねらい：

看護技術は、看護の専門知識に基づいて、看護の対象となる人の安全・安楽・自立を目指した行為であることを学ぶ。

学修目標：

- ① 看護の行為としての看護技術の目的・特徴について説明できる。
- ② 対象者の安全・安楽・自立を目指した行為であることを説明できる。
- ③ 看護技術を評価する方法を説明できる。

D-2-2)-(2) 安全を守る看護技術

- ① 安全な療養環境について説明できる。
- ② 感染予防ができる。

D-2-4) 診断・治療に伴う援助技術

ねらい：

診断・治療の場面において、安全・安楽に受療できるための基本的な看護技術を学ぶ。

学修目標：

- ① 検査に伴う援助技術を修得する。
- ② 創傷管理技術を修得する。
- ③ 与薬の技術を修得する。
- ⑤ 症状・生体危機管理技術を修得する。

D-6 組織における看護の役割

D-6-2) リスクマネジメント

ねらい：

医療や看護におけるリスクマネジメントについて理解し、そのために必要な行動を身に付ける。

学修目標

- ① 医療におけるリスクについて説明できる。
- ② リスクマネジメント、有害事象（転倒・転落等の事故、褥瘡、与薬エラー等）の予防方法について説明できる。

準備学修に必要な学修の時間

各講義の中で指示します。

授業計画

回	日程	時間	場所	実施方式	配信方法	テーマ	授業内容	担当者
1				オンデマンド	Moodle	学習に関するガイダンス	オリエンテーション	坂根・宮本 森脇
2	10月8日	13:00～ 14:40	第3実習室	オンデマンド +対面	Moodle +Webex	感染予防の技術	ガウンテクニック法, 滅菌物の取り扱いと清潔操作	坂根・宮本 森脇
		14:55～ 16:35						
3	10月22日	13:00～ 14:40	第3実習室	オンデマンド +対面	Moodle +Webex	創傷管理技術	創処置、皮膚保護剤の活用、包帯法	宮本・坂根 森脇
		14:55～ 16:35						
4	10月29日	13:00～ 14:40	第3実習室	オンデマンド +対面	Moodle +Webex	リスクの高い患者の 食の援助技術	経管栄養	宮本・坂根 森脇・来海
		14:55～ 16:35						
5	11月5日	13:00～ 14:40	第3実習室	オンデマンド +対面	Moodle +Webex	リスクの高い患者の 排泄の援助技術	グリセリン浣腸 摘便 導尿（一時導尿・膀胱内留置 カテーテルの管理）	坂根・宮本 森脇・来海
6		14:55～ 16:35						
7	11月12日	13:00～ 14:40	第3実習室	オンデマンド +対面	Moodle +Webex	呼吸・循環を整える技術	酸素療法、吸引、吸入	坂根・宮本 森脇・来海
8		14:55～ 16:35						
9	11月19日	13:00～ 14:40	第3実習室	オンデマンド +対面	Moodle +Webex	症状・生体機能管理技術	検査の種類と適応、禁忌	宮本・坂根 森脇・来海
10		14:55～ 16:35					静脈血採血	
11	11月26日	前半G 13:00～ 15:30 後半G 16:00～ 18:30	第3実習室	オンデマンド +対面	Moodle +Webex	与薬の技術	与薬の種類とリスク、薬剤の管理	坂根・宮本 森脇・来海
12							皮下注射、筋肉注射	
13							点滴静脈内注射の管理	
14				オンデマンド	Moodle	医療安全とリスクマネジメント	診療援助に伴うリスク	宮本・坂根 森脇
	12月24日	13:00～ 14:40	N11	対面		筆記試験		

備考

※演習に参加するにあたり、事前課題に取り組んでおくこと。

※対面での演習は、学生を半数に分けて入れ替え制で行います（前半13:00～14:40、後半14:55～16:35）。

※授業時間外に視聴覚教材（DVD）を視聴する日時を提示します。

島根大学行動指針のフェーズが2以上になった場合、対面演習はWebexによるライブ配信に変更します。対面演習は延期し、フェーズが下がった後に実施します。